

# 松仙小学校の教育ビジョン2017

大田区立松仙小学校長 齊藤 純

## I 学校経営の基本理念

創立64年目を迎える松仙小学校は、子供、保護者、地域社会と共に着実に築き上げてきた歴史と伝統を大切に、未来の社会を生きる子供中心の教育を基盤に、社会の変化に柔軟に対応した、創造性に富んだ学校経営を進める。基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、生涯に亘って学びに向かう力を培い、心豊かで国際性を備えた実践力に富む子供の育成を目指して教育活動を展開する。その際、社会の動向を敏感に捉え、都・区の教育目標・ビジョンを踏まえた上で、子供・保護者・地域社会・教職員から「友達と楽しく夢中になれる、学び甲斐のある学校」「期待できる、通わせ甲斐のある学校」「同僚と切磋琢磨し合える、働きがいのある学校」と評されるような、実践と研究・研修を積み重ね、公教育の理念を具現する公立学校として、自信と誇りをもってその教育を世に問うことのできる学校づくりを基本理念とする。

## II 学校経営の重点

### 1-1 学校教育目標

○じょうぶな子ども（体） ○よく考える子ども（知） ○思いやりのある子ども（徳）

学校教育目標は、6年間の小学校教育や生活を通して、子供たちに身に付けさせていかなければならない重要な目標であり、全ての教育活動は、学校教育目標具現化のための諸活動であると捉えることができる。したがって、学校における教育活動は、常に学校教育目標と関連付けていかなければならない。また、学習指導要領では、子供たちの「生きる力」をより一層育むことをねらいとし、知・徳・体のバランスのとれた力を身に付けさせていくことが重視されている。そのために、たくましく生きるための基盤となる「健康・体力」、基礎・基本を確実に身に付け、自らの課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力といった「確かな学力」、そして、自らを律しつつ、他者と協働して問題解決をしようとする心、他者を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」の3点をしっかり身に付けさせていかなければならない。そこで、本校では、それら3つの力をバランスよく身に付けた児童の育成を目指し、上記のような「じょうぶな子ども（体）」、「よく考える子ども（知）」、「思いやりのある子ども（徳）」の学校教育目標を設定する。

### 1-2 学校教育目標具現化のための方策（主な努力事項・具体的な方策）

#### (1) -1 「健康・体力」を育むための努力事項

- ① 体力向上の推進
  - ・運動の楽しさや喜びを味わわせる授業の工夫改善を図り、運動好きな児童を育成する。
  - ・自ら運動する意欲を培い、生涯に亘って運動に親しむ資質や能力を育成する。
- ② 健康教育の推進
  - ・生涯に亘って心身共に健康で、安全な生活を実践できる児童を育成する。
  - ・自分の体の様子を知り、健康の保持増進ができる資質や能力を育成する。
- ③ 安全教育の推進
  - ・自他の生命を尊重し、安全な生活を営む資質や能力を育成する。
  - ・危険を察知し、安全な行動・態度がとれる児童を育成する。

#### (1) -2 「健康・体力」を育むための具体的な実践

- ① ねらいをおさえ、運動量の豊富な授業を展開する。
- ② 体育学習のみならず、日常の学校生活においても、体育的活動を意図的・計画的に実践する。
- ③ 学級や縦割り班での集団遊びの励行と仲間作りを意図的に推進する。
- ④ 用具の安全な準備・後始末の習慣、活動するための環境の安全確認の徹底を図る。
- ⑤ 体力テスト等の結果を活用し、健康増進への関心を高めるとともに、改善の具体策を講じる。
- ⑥ 1校1取組で「長縄跳び」に挑戦し、克己心を磨くと共に、学級の凝集力を高める。
- ⑦ 個人の運動技能向上を図るために、鉄棒カード、縄跳びカード等を用い、挑戦する心を鼓舞する。
- ⑧ 何のために準備運動をするのかを明確にし、主となる運動への心身の準備となる運動を適切に行う。
- ⑨ 家庭と連携し、早寝早起き朝ご飯の実践を徹底する。

#### (2) -1 「確かな学力」を育むための努力事項

- ① 確かな学力の定着
  - ・日々の授業を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ると共に、自ら学びに向かう力の向上を図る。
  - ・分かる喜びを味わわせ、学力向上を目指した指導方法の工夫改善を図る。
- ② 児童を生かす学級経営
  - ・児童が生き甲斐と喜びを感じる学級づくりを目指す。
  - ・教え合い、学び合う集団づくりを目指す。
- ③ 学びに向かう力を高める
  - ・教育課程全体で学ぶことの楽しさを味わうことができるようにするとともに、自立した学習者の育成を目指し、個々の学びに向かう力を高める。
  - ・家庭と連携し、家庭学習の充実を図り、学習習慣の確立を目指す。

#### (2) -2 「確かな学力」を育むための具体的な実践

- ① 教材研究と準備に努め、分かる・楽しい授業を展開する。
- ② 児童の考えを深め、引き出す発問・指示・板書の工夫に努める。
- ③ ノートは思考のための道具であり、思考の記録でもある。そのことを意識したノート指導を適切に行う。
- ④ 思考の見える化を図るための「思考ツール」を各教科等で、計画的に適宜取り入れ活用を図る。
- ⑤ 具体物や教育機器（ICT）等の効果的な活用を図る。
- ⑥ ノートや記録を確かめ、評価を授業改善に生かすようにする。
- ⑦ 教えて理解させること、知識を元に考えさせることをバランスよく取り入れ、個への的確な指導を行う。
- ⑧ 家庭学習や宿題の充実を図ると共にそのことの価値を実感できるようにする。

### (3) - 1 「豊かな人間性」を育むための努力事項

- ① 規律ある態度の育成
  - ・松仙スタンダードを身に付け、節度をわきまえ、自主自立の精神に満ちた児童を育成する。
  - ・学校と家庭が一体となった規律ある態度の育成を図る。
- ② 人権教育の推進
  - ・全教育活動を通して、人権教育の意識の高揚を図る。
  - ・自他を尊重し、人権感覚と豊かな人間性を育む。
  - ・学校は、「みんなでみんなができるようになる」とい理念を、学校教育全体で貫く。
- ③ 心の教育の推進
  - ・道徳の授業を充実させ、道徳的実践力の育成を図る。
  - ・基本的な生活習慣や社会生活上のモラルを育成する。

### (3) - 2 「豊かな人間性」を育むための具体的な実践

- ① 道徳・特別活動の指導計画の完全実施に努める。
- ② 音楽・読書・絵画等を通して、豊かな感性を育む。
- ③ 栽培や飼育を通して、生命尊重、人権尊重と優しい心を育てる。
- ④ 挨拶の励行と正しい言葉遣いに努める。
- ⑤ 決められたことを尊重し、守り、実践する。
- ⑥ ソーシャル・スキル・トレーニング等を適宜取り入れ、相手の気持ちを考えた行動が実践できる子供を育成する。
- ⑦ 授業において、学び合う場面を取り入れ、他者と協働する態度を育成するとともに、自己有用感を高める。

## 2 教育課題への取り組み

### (1) 人権教育、心の教育・道徳、生活指導等

学校は、勉強をするところ、自らを鍛え磨くところである。よって、学力を身に付けるための学習のみならず、社会人となるための基礎・基本を身に付けることが求められている。人権教育、心の教育・道徳、生活指導、集団における躰等を大切にす。どの子ども、時と場合ふさわしい「返事、挨拶、言葉遣い、後片付け」ができるように、組織として一貫性のある指導を重ねる。

### (2) 学力及び学びに向かう力の育成を支える基盤づくり

#### ① 学力向上

子供は、年間で約1000時間の授業を受ける。毎時間の学習の積み重ねの結果として「学びに向かう力」が育まれることを考えると、日々の授業がいかに重要かが分かる。子供が主体的に学びに取り組むためには、まず「学ぶことが楽しそう」「学んでみよう」と思わせることが大変重要である。そのためには、「面白そう」という学びのきっかけ作りも大切であるが、何より、「何のために学んでいるのか」「この学習に取り組むことで、どのような力が身に付くのか」「どのようにして学び進めればいいのか」等の見通しをもつことができる学習を創造することが大切である。子供の中によさど可能性を見出し、伸ばし、見取り、関わり、成長を認め、価値付ける・褒めることを通して自己有用感を高め、学びに向かう力を高める。子供の実態によっては、先行学習等も取り入れるなど、認知科学の成果も適宜活用して学習を創造する。

一方、発問を精選し、聞かざるを得ない、読まざるを得ない、考えざるを得ない、発言せざるを得ない、学び合う(他者との対話)しかないところまで追い込む。問い返して、判断の根拠を明確にさせる。振り返る(個人内対話)ことで知識の再構成・ネットワーク化を図る。授業が、単なる正答探しの時間ではなく、自らの思考力・判断力・表現力を高めるための重要な機会と場であることを、教師も子供も保護者もがしっかりと認識し、真剣勝負で向き合えるような授業を創造する。

その他、校内研究の取組として、生活科・総合的な学習の時間の学習を通して、児童の主体的に探究する力を育む。育てるべき主体的な探究力とは何か、なぜ今それが必要なのかを理解した上で、体験を通した生きた授業、教育活動をいかんとして展開するかを実証的に追究する。併せて、日々の授業全般にわたり、常に改善がなされ、課題を抱えた子供だけでなく、全ての子供にとって「わかる」「できる」が実感できるユニバーサルデザインの授業に結び付けるようにする。そして、具体的に子供の成長が、子供にも保護者にも実感できるようにする。

#### ② 個に応じた学習指導の推進

一人一人の児童が学習上のどういつまづきをもっているかを見極めるように努める。さらに、そのつまずきをどのようにしたら自ら克服できるか、学習法の指導や学習観の転換も含め、指導法を改善する。その上、放課後や長期休業中において、個別学習相談や補習指導する時間を設定し、個別に対応することに努める。趣旨については、保護者の理解が得られるように努める。

#### ③ 学力(学習)を支える基盤づくり

社会人となるための基礎・基本は、学力(学習)を支える基盤でもある。授業中を始め公的な時・場・役割において学習のルールやマナーを大切に、どの子の学習も保障され、授業の本質に直接迫り、目標の達成を目指す。さらに、「学力(学習)を支える基礎・基本」には、学習時の姿勢、鉛筆の持ち方、ノートのとおり方、発言のルール、話し合いの仕方、インタビューとメモの取り方、辞書の引き方、学習道具の使い方等がある。発達段階や個々の実態を踏まえながら、各学年で身に付けさせるべきことを明確にし、学校全体で徹底して身に付けさせていく。指導者の恣意によって、本来子供が身に付けるべきことが疎かにされることは許されない。

#### ④ 家庭・地域社会との連携

脳は、覚えたことも暫くすると忘却する仕組みになっている。覚えたことを長期記憶として忘れ難くするためには、何かと組み合わせさせて印象深くする等の工夫の他、繰り返して思い出し、活用していくことが重要である。予習・復習の効果は科学的に実証済みである。学校での勉強をより確実なものにするために、宿題の意義と方法を問い直し、家庭での学習の中に位置付け、推進したい。

また、地域教育連絡協議会を充実させるとともに、町会等との連携を強め、保護者のみならず、地域社会の教育参加・参画を促進する。さらに、ボランティア、大学、NPO、企業等の力を活用し、総がかりで教育を推進したい。

### (3) スタートカリキュラム

これまで、新1年生を半ば赤ちゃん扱いし、小学校生活への適応指導と称して、幼児教育で学んできた資質・能力を活かすことなく、一から十まで教師主導に「~の仕方」「~の使い方」といった指導がなされてきたことは否めない。新1年生は、入学直前まで、保育園や幼稚園で年長児として、最も信頼のおける存在として日々生活をしてきた存在である。入学してきたばかりの子供たちは、環境が変わり、不安でいっぱいのため、本来の力を発揮できないだけなのである。「安心」できる環境で、幼児期に経験してきた「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」を基盤としながら、生活科を中心としたスタートカリキュラムを学校全体で取り組むことで、子供の主体の学習活動を展開することができる。こうしたスタートカリキュラムを実施することで、子供は、自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、自立に向けて歩んでいくと考える。これこそが、小学校6年間の土台となるものである。

#### (4) アクティブラーニング

アクティブラーニングとは、能動的学習のことであり、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習のこと」である。子供一人一人が、思いや願いの実現に向けて学習活動に取り組み、問題の解決に向けた一連の学習活動を連続する中で、自ら学び、共に学ぶことを期待するものである。

子供が自発的自主的に課題に立ち向かっていけるよう、教師は、①子供たちの願いを把握し、②課題との出会い・学習の始まりを演出し、③効果的な追究を継続・促進する助言・指導を行い、④必要な情報・資料を提示できるよう自ら取材・体験し、⑤図書・IT等の環境を整備し、⑥TTやゲストティーチャー等を活用し、⑦適宜思考ツールの活用を促し、⑧学習の過程と結果を価値付け、⑨どのような方向に発展する可能性があるかを見極め、⑩次への課題につなげる、ということが求められる。子供の学びを促すことを通して、授業の既成概念を砕き、教師自らの指導力を磨く絶好の機会としても捉えたい。

#### (5) 落ち着いた本に親しむ習慣形成

人は、自分のもっている語彙の範囲でしか思考や表現をすることができないものである。したがって、意図的に語彙を増やす努力をする必要が生じる。言葉の力を付ける国語の時間も勿論であるが、主体的に語彙を増やすことに繋がる読書の重要性を認識し、本に親しみ活用する機会を増やす努力をする。しかしながら、高学年になればなるほど、授業時間として読書の時間を確保することが難しくなるので、隙間時間の活用や昼の時間の活用を図りながら、家庭とも連携して、読書量の向上に努める。また、今年度から、読書学習司書の活用や連携協力をしている久が原図書館や保護者による図書ボランティア等も活用し、「読み聞かせ」や「ブックトーク」等を充実させるだけでなく、全校一斉に行う読書週間を実施する等、様々な工夫を凝らし、確かな読書習慣を形成したい。

#### (6) 豊かでたくましい心を育てる

##### ① かかわりを大切にし、多様な表現で伝え合える子供

学校での学びは、共に学び合うことによって真の理解を深めることに主眼が置かれる。共生の時代を生きる子供たちを育てるためには、どうしても学び合いによる学びの深まりを体感し、そのよさを実感させ、進んで取り組もうとする意欲を高める必要がある。

そこで、友達と協力し合う場や、異年齢集団で活動する場(縦割り班活動)、皆の前で自分の考えを説明したり、リアルタイムでの双方向でのコミュニケーションの機会を設けたり、自分の思いや考えを同年齢や下級生に伝える機会を設けたりする等様々な関わりを実現させる必要がある。学習したことや感じたことを言葉、絵、音楽、文章、演劇、パソコンなど、様々な表現手段で表現し合う経験を積ませたい。特に、言語環境を整え、語彙を豊かにし、論理的に考え、美しい表現・言葉文化を身に付け、時と場ふさわしい心のこもった言葉遣いができるようにする。また、そうした言語活動が、児童にとって必然性をもつような機会と場を、学校生活の中に多様に創り出していきたい。

##### ② 人の心の痛みが分かる子供

最近「ごめんなさい」という言葉を耳にすることが少なくなった。自分の過ちを認めようとせず、叱られても納得しないまましぶしぶ謝る、逆に失敗した相手を責め続ける、という場面も見かける。嫌な思いをしているのは、自分以上に相手の方かもしれないということを認識できない。人の心の痛みを共感的に受け止め、理解し、進んで素直に「ごめんなさい」と言える子供を育てたい。また、困っている人がいたら優しく接して、「大丈夫、心配しないで」や「お互いさま」と声を掛け合うことや、「こんなことをしたら、相手にとってきつと～なるだろう」と予測して行動し、結果に責任を感じる子供を育てたい。道徳の時間を中核として、全教育活動を通して、誰もがもつ心の弱さと葛藤、善に向かおうとする崇高さを、子供たちと共にじっくりと語り、考えていきたい。

##### ③ 人のため、社会のために、進んで汗をかいて働く子供

「おはようございます」は、早く起きて既に仕事を始めている人にかける言葉である。「お休みなさい」は、遅くまで働いている人を労う言葉である。日本は古来より勤勉さに生き方としての価値を見出してきた。「人や社会のために自分は何をするか」の視点を欠いては、人間としての存在意義がなくなる。学校においても家庭においても、人の仕事を「お手伝い」するだけでなく、役割・責任をもたせた「自分のやるべきこと」を意識させ、自分の頭で考え行動することの出来る、リーダーシップを発揮できる子供を育てたい。

##### ④ 逆境に負けない心(レジリエンス)、やり抜く力をもった子供・素直に生きる謙虚な子供

現代の子供たちが直面するストレスとプレッシャーの大きさは、前世代と比べて遙かに増大しています。感情の調整や自己コントロール、対人関係力、自己効力感、楽観性などのレジリエンスの要因を子供たちに教え、その力を高めることは、抑うつやストレスの結果生まれるネガティブな感情が起こす種々の問題に対して「ワクチン」のような役目を果たすことが明らかにされています。

想像を絶する激動の時代を生きることになる子供たちに、このレジリエンスを身に付けさせることは、健康的な発達を遂げさせるためになくてはならないことです。「ピンチは飛躍のチャンス」と前向きに捉え、今しかできないことに積極的に向き合おうとする子供を是非とも育てたい。また、逆境であれ順境であれ、その与えられた境涯に素直に生きようとする子供、謙虚の心を忘れない子供を育てたい。素直さを失った時、逆境は卑屈を生み、順境はうぬぼれを生むからである。

##### ⑤ 自ら心身を鍛える子供

健康づくりを心身一体的なものとして捉え、豊かな心の育成とともに体育・食育・健康教育にも力を入れ、基礎体力や技能、粘り強い心を培うだけでなく、子供が自分の普段の生活や食生活にも関心の目を向け、自らよりよい生活を志向できるようにする。そのために、子供の生活実態を捉えるとともに、自らの生活、食生活を自分で改善しようとする意欲とそのための知識を育むための指導が必要である。栄養教諭・食育リーダーを中心とした食育教育の充実を図りたい。それと共に、総合的な学習の時間においても「食」をテーマにした取り組みを行いたい。我々教師は、体育のみならず、休み時間の遊び、給食、健康診断、保健指導を健康づくりの場として認識し、子供自らが自分を高めることができるような全校的な取組となるよう努力する。

### Ⅲ めざす学校像

## 「楽しく」磨き合うプロ集団としての学校

人間の脳は、目や耳から入ってくる情報には、最初にA10神経群という箇所、感情のレッテルが貼られ、そのことがその後の情報の理解や判断、記憶するプロセス全てに影響を与える。最初に「好き」「楽しい」「やってみよう」という肯定的なレッテルを貼られた情報については、脳の理解力や判断力、思考力、記憶力は格段に威力を発揮する。好きなことには集中できたり、興味のある情報にはすぐ反応できたりする理由はここにある。しかし、「大変そう」「つまらなそう」「嫌い」といった否定的なレッテルを貼られた情報に対しては、脳は活発に働かない。嫌いな科目の勉強がなかなか手につかないのは、ここに原因がある。

私たち教員は、学校は勉強するところであるから、「多少苦しくても我慢をして頑張るところ」であるという学校観で長い間育ててきたと考えられる。そして、そうした学校観の下で、子供たちの教育に当たってきたのではないかと。しかし、上記のように、人間の脳の特性が明



らかになってくると、これまでの考えが、必ずしも理にかなっていなかったということが分かる。もちろん、大きな困難を克服することによって深い理解に達したり、高い技能を身に付けたりして、学ぶことの真の喜びを味わうということは今後もあり得るだろう。しかし、原則的には、やはり「学ぶことが楽しい」と思えなければ、好きと嫌いにかかわらず様々な教科・領域の学習をしなければならぬ現状の学校教育においては、学校に通うことが楽しく感じられず、学習に向かう力も長続きしないのではないかと考える。

そこで、今年度の松仙小は、あえて『楽しい学校づくり』を標榜し、これまで長年に亘りとられてきた学校観を見直し、未来を生きる子供たちが「自律的・自立的な学習者」となることができるように、教師自らが新しい自分に挑戦し、創意工夫を重ねたいと考える。

我々教育のプロ集団である教師は、激動の未来を生きる子供を、今、正に育てているのだということを意識し、子供たちが社会の中核になる時のことを想定して、その基礎を培う役目を担っているということを意識して教育活動に当たらなくてはならないと考える。実際に、我々は、「楽しい学校」の創造のために、次の点を意識して日々の学校生活を創造する。

- ◇生活・総合の「楽しい」授業づくり
- ◇全教科で「楽しい」授業づくり
- ◇「楽しく」磨き合うプロ集団～同僚性の向上～
- ◇「安心・安全」「自己発揮」できる学級づくり
- ◇「自己選択」「挑戦」「遊び」「関わり」のある「楽しい」学校生活づくり

#### IV 目指す児童像

### 学ぶことに熱中・没頭し、楽しむ松仙っ子

- 新しい自分を発見するために挑戦し続ける子供
- 自分なりの思いや願いをもち、実現しようと粘り強く取り組む子供
- 人と関わることをためらわず、新しい価値を生み出そうとする子供

#### V 目指す教師像

### 「愛情・笑顔・個性」があり「誇り・使命感・豊かな言葉」をもった教師

- 向上心をもって常に研究と修養に励み、指導技術のみならず人間性を高め、児童の学力向上に努める教師
- 教育に対する惜しみない愛情と使命感と責任感、誇りと崇高な理念をもち、人を感化する高い言語力をもつ教師
- 報告・連絡・相談を基本に、組織の一員として「自分の学校」という意識を強くもって学校経営に参画する教師
- 同僚や保護者・地域社会との連携や絆を深め、信頼され愛される教師

#### VI 学校経営の行動目標

学校経営は、教職員一人一人が、自らの役割と権限と責任を自覚し、進行管理を確実に行うことで成立・機能する。「いつまでに、誰が、何を、どのように行うか」を明確にし、誰もがわかる数値を含んだ具体的な目標を設定し達成していきたい。

何よりもまず、以下の点について、子供に求める前に、教職員自ら率先垂範し、信頼・敬愛を得ることに尽力する。

- ① 教育公務員として場に相応しい『返事、挨拶、言葉遣い、来客・電話の対応、服装等』を心掛ける。
- ② 心身ともに健康・安全で規則正しい生活を実践する。
- ③ 法令等を遵守し、社会人としてのマナーを踏まえて行動する。
- ④ 危機管理意識を高め、危険や災害から身を守る意識を高め、知識を蓄積する。
- ⑤ 事故を事件にしない。人災を起こさない。そのために事故報告は迅速に行い、事後対応を誠実に行う。隠蔽しない。
- ⑥ 週の指導計画（週案簿）にマネジメントサイクルの機能をもたせ、意図的計画的な教育活動の基礎資料とする。
- ⑦ 授業の質を高めるため、教材研究、準備、記録、評価を充実させる。
- ⑧ 研修の成果を日常の授業に、具体的な形、システム、財産として継承していく。
- ⑨ 本物体験、教材開発、苦楽の共有等、『心の琴線に触れる教育』を行う。
- ⑩ 快適な生活・学習・仕事空間づくりを推進する。教室は勿論のこと、職員室の机上の整理・美化に心掛ける。
- ⑪ 限られた時間で共通理解を図り、確実な業務遂行を図るために、プレゼンテーションに一工夫を加え、会議等の効率化を図る。特に、提案文書は、どこが改善点なのかが一目で分かるように工夫する。
- ⑫ 連絡の原則（報告・連絡・相談）と対応の原則（迅速・的確・誠実）を徹底する。
- ⑬ 地域教育連絡協議会を尊重し、自分たちの取組が独善的にならず、常に改善がなされるよう、透明性のあるものにする。
- ⑭ 広報活動を重視し、学校の取組をできるだけリアルタイムで発信し、理解を得られるようにする。
- ⑮ 前例にとられることなく、「何のために」を合言葉に教育課程全般にいったんは「ダウト」をかけ、見直し、未来を生きる子供の成長に資することのできる教育活動するために工夫改善を積み重ねる。

特に、次の点は、学校教育の根幹、信頼に関わる重要事項として心に刻んで日常の教育活動に取り組む。

- ★ いじめや生活の乱れ、非行、不登校の兆し、心のサインを見逃さない。
- ★ 生命・人権・人格を脅かし傷つける言動を許さない、見逃さない。
- ★ 個人情報紛失、体罰やセクハラは言うに及ばず、誤解を招くことは行わない・行かせない。
- ★ 教職員間のいじめ、セクハラ等、教師としてあるまじき行為・言動は厳に慎む。